

23年度消費・安全対策交付金のうち、「地域における日本型食生活等の普及促進」の取組事例

都道府県名	新潟県
事業実施主体	糸魚川市
事業名	「キッズ・キッチン」
開催日	平成23年5月～11月（18日）
開催場所	青海保健センター、能生保健センター、地区公民館
参加対象者	年長児とその保護者
参加者数	546人
事業概要	<p>●目標 地域における日本型食生活等の普及促進</p> <p>●事業メニューの趣旨 当市は、豊かな自然と悠久の歴史・文化に恵まれ、これらに根差した豊かな食文化を有している。市民一人ひとりが、食を大切にする心、自然の恵みに感謝する気持ち、優れた日本型食生活の重要性を認識することが必要である。 特に幼児期は、味覚が形成され、好奇心旺盛であるため、この時期を捉えて日本型食生活の大切さを理解させるとともに、保護者が家庭で食育を実践できるよう支援が必要だと考えている。</p> <p>●内容 市内全年長児を対象にした「キッズ・キッチン」では、既に取り組んでいる「いといがわ流・食生活」を目標に、ライフステージに応じた食育を推進している。 「キッズ・キッチン」は、幼児だけで調理を行い、保護者は口や手を出さずに見守る。 そのため、安全に「調理で教える」食育を実施するにあたって、食育推進リーダーの研修会を実施した。 研修会では、食の知識やその手法を学び、延べ40人の参加があった。今後は食育の普及・展開に地域に根差した活動が期待される。 食育推進リーダーが実施する「キッズ・キッチン」は、「料理を教える」ことを優先するのではなく、「料理で教える」ことを大切にしている。 調理に入る前に主食、主菜、副菜についてお話をしたり、食材をじっくり観察する。子どもの「やりたい気持ち」を大切にしながら関わることで、子どもたちが主役となり、自分たちだけで主食、主菜、副菜をつくりあげることができる。 食材は地元の旬の野菜や魚を使う。「魚はたくさん卵を産むけれど、大人になれるのは1～2匹」そんな話を聞くと、さっきまで魚を気持ち悪がったり、怖がっていた子どもも、「命」の大切さや、「食べること」のありがたさを感じ、食材を見る目も変わってくる。 参加した子どもたちは「食」への関心は勿論、「食」以外の分野でも意欲的に関わられるようになってくる。 保護者からは「子どもが食事のバランスの大切さを理解する良い機会となった」「家でも食事づくりに参加させたい」などの反響を得ることができた。 今後は、食育推進リーダーによる小学生を対象にした「ジュニア・キッチン」の開催や保護者に対する食育の普及・啓発などの展開を図ることで、</p>

日本型食生活等の普及を促進していく。

写真

